

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	小児がんコース（インテンシブコース）						
対象者	医学研究科大学院生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	小児腫瘍学、小児外科学、放射線治療学、小児腫瘍病理学などの総合的知識を備え、小児がん治療全体を包括的に俯瞰しつつ、化学療法あるいは小児腫瘍外科手術を行うことのできる人材を養成する						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目22単位、実習2単位を履修し、試験に合格すること。 ・本教育プログラム・コースで定める選択科目について、講義4単位以上、選択実習合計960時間以上を履修し、試験に合格すること。 						
履修科目等	<p><必修科目></p> <p>小児腫瘍学講義（22単位）（小児腫瘍学 5単位、小児腫瘍外科学 5単位、小児脳神経外科学 2単位、小児泌尿器科学2単位、骨軟部腫瘍学 2単位、小児腫瘍病理学 4単位、放射線治療学 2単位）、小児病理実習 2単位</p> <p><選択科目></p> <p>アドバンス小児腫瘍学講義（3単位）、アドバンス小児腫瘍外科学講義（3単位）、血液腫瘍治療実習、小児腫瘍外科実習ほか</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	小児がんは小児腫瘍科、小児外科、その他の外科系、さらに放射線治療科による総合的チーム医療であり、診断・評価には小児病理や小児放射線診断が不可避である。本学はこれらの広い領域の専門医を擁し、自治体の小児がん拠点連携病院医していさされており、また小児がん臨床研究の拠点となっている。これらの背景を活用し、小児がんの基礎的な講義・実習と、臨床の実際、臨床試験の進捗を現場で体験するカリキュラムにより、総合的な視点を持って治療全体を俯瞰できる臨床医を抑制する。アドバンス部分では内科系、外科系に分かれてカリキュラムを組み、どちらかの専門医を養成する。						
指導体制	小児外科（黒田達夫）、小児科（嶋田博之）、小児病理（大喜多肇）を中心に、放射線科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科などで小児がんを扱っている専門スタッフにより多領域連携で指導体制を構築する						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	小児血液・がん専門医、小児がん認定医（外科）、小児外科専門医など						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8